

どのようにお慰めすればよいものか、まったくあてもなくお悔やみを  
書きはじめてしまいました。

ご胸中、拝察するに余りあります。なぜ人生は、ときとして、このよ  
うなむごい経験を強いるのでしょうか。目前に広がっていたご子息の豊  
かな未来を、突然無謀に奪い去る権利が、いったい誰にあるというので  
しょうか。

私はご子息を黄泉の国に送った加害者を、心の底から限りなく恨みま  
す。私の恨みが、あなたをお慰めすることに、少しも役立たないのを知  
っています。力なくうなだれることが精一杯の今のあなたのかわりに、  
加害者と運命を呪います。

けれど、やはりご悲嘆に飲み込まれてはいけないと思います。ご子息  
の応援する声が、きつと聞こえるはずですよ。

ご霊前にお供えください。わずかですが、ご香典をお送りします。御  
弔問に伺えず慚愧に耐えませぬ。

合掌